

「第10回診診連携懇談会」の近況報告です！

ご登録頂いている開業医の先生方と私どもクリニックとの「第10回診診連携懇談会」を、24年6月30日(土)に院内会議室で開催させていただきました。その一部を報告させていただきます。

1. 症例報告 3例

①胆のう粘膜から1mm細茎の25mmのポリープに局限した **早期胆のう癌**の1例

院長 末永昌宏

②**脾のう胞性疾患**の1例

副院長 堀口祐爾

③宗教上の理由で輸血を受け入れないの**脾頭部癌**に対して、**無輸血での幽門輪温存脾頭**

十二指腸切除術の安全性を担保して行った1例

院長 末永昌宏

*いずれも大変貴重な症例で、また脾頭十二指腸切除術に対する無輸血手術の報告はこれまでに日本で2例しか報告がなく、当院の工夫を集結した症例の報告です。

2. 当院の診療実績などの報告

1) 当院で治療を行った**消化器癌**の患者さんの中で最も多いのは**肝細胞癌**で、**開設以来6年半で218名の登録**があります。この肝細胞癌に対する治療法の選択はその状況をよく説明して患者さんとよく話し合って決定してきました。反復治療の必要性のある患者さんがありますので、患者数と治療回数と異なりますが、**肝切除術74回、肝動脈栓塞術752回、ラジオ波焼灼術242回、エタノール注入療法 回**など行っていたことを報告しました。

2) 当院の胆のう結石症に対する**腹腔鏡下胆のう摘出術(通称ラバコレ)**に関する報告を行いました。初診から手術まで、また術後最終までの期間を他施設に比較して最短にしております。

①初診から手術前の検査や手術の具体的な内容などの説明に要した受診回数は平均3.3回と受診から手術までの受診回数は他の病院の受診回数より大変少ないことが分かりました。

②急性胆のう炎により入院していた患者さんを除くと、全員手術前日の入院です。

③**手術後退院までの日数は平均2.9日**と、通常よりかなり短い入院期間でした。

④開腹術に移行したのは1%でした。

3) 胃癌、大腸癌手術に関しては、名古屋大学消化器外科2の熟練された先生により、腹腔鏡下切除術の割合が60%となっています。

3. その後懇談会を行い、より信頼ある診診連携のあり方につきまして熱い話し合いをしました。

4. 懇談会終了後先生方と私ども職員との懇親会を行い、より親密な、より信頼ある関係を確立することができました。

以上でした。

24年8月 院長 末永 昌宏